

鹿児島国際大学は、東西融和の建学の精神と教育理念とに基づき、教育方針を（1）アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）（2）カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）（3）ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）の3点に要約して明示します。

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れ方針）

1932年に創立された鹿児島国際大学の建学の理念は、「東西文化の融合」と「地域社会への貢献」です。この理念は、今でも「社会、文化を世界的な視野で考えると同時に、地域社会への発展に寄与できる人材を養成する」という本学の目的の土台を形成しています。

この目的に即し、本学の理念と教育目標に共感する以下のような人を国内外に広く求めます。また、そのために学部ごとに、適切かつ多様な選抜方法を定め、実施します。

- 本学の学士課程教育を受けるのに必要な基礎学力を備えている人。
- 社会が培ってきた文化や社会の将来に関心を持っている人。
- チャレンジ精神を持ち、困難なことに取り組む意欲のある人。
- 地域社会や国際社会の活性化に取り組む意欲のある人。
- 他者を尊重し、豊かな人間関係をつくる意思のある人。
- 高等学校等で、正課・課外に主体的に取り組み、優れた実績をあげた人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

鹿児島国際大学は、個々の学生が持っている可能性・考える力を開拓することにより、学位授与の方針に掲げる人材を養成しています。そのために、以下の方針に基づいてカリキュラム（教育課程）を編成・実施します。

- すべての学生に提供する「共通教育科目」と、各学部学科に設置する「専門教育科目」の二つを大きな柱とし、それぞれの学部・学科の教育目標にあわせて科目を体系的に配置します。
- 外国語による授業の配置、短期・長期の留学機会の確保、海外でのインターンシップの実施などの方策によって、国際社会で必要な技能・教養を養成します。
- 学生が地域社会との関わりを通じて成長できるフィールドワークやインターンシップに関する科目やプログラムを設けます。
- 厳正かつ公平な成績評価を保証するために GPA 制度を実施するとともに、履修した科目の学修を確実にこなせるように履修登録単位数の上限設定制度を設けます。
- 職員の教育技能を高める一連の FD・SD 活動を行います。また、様々な学生支援を実施し、多様な学習歴を持つ学生が自主的に考え・学ぶ力を養成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

鹿児島国際大学は、厳正な成績評価のもと卒業に必要な所定の単位を修め、以下の能力を備えた学生に学位を授与します。

- 豊かな社会生活、職業生活を送る上で必要な思考力、情報収集能力、コミュニケーション能力。
- 専門分野で修得した知識・経験を総合的に応用し、主体的に課題の解決に取り組む能力（課題探求能力と問題解決力）。
- 幅広い視野に基づいて他者を尊重し、多様な文化を理解する能力。
- 新しい知識や経験に積極的な関心を抱きながら、的確に判断する能力。

2016年度入学生用 の教育方針（3つのポリシー）

経済学部

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

経済学部は、経済及び経営に関する専門的な知識を身につけ、地域社会と国際社会で活躍できる人材を養成することを目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 経済や経営についての知識を身につけ役立てたいと思っている人。
- 地域・日本・世界における経済社会の動向に関心を持ち、これを専門的に学ぶ意欲がある人。
- 企業の総合職、会計や情報処理の専門職、公務員、独立開業等を目指し、そのために必要な教育を受けることを望む人。
- 地域に愛着を持ち、地域社会の発展に貢献したいと考えている人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経済学部は、学部の教育目的を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 1～2年次には、専門教育への円滑な移行に必要な基礎学力を強化するために、全学共通の共通教育科目を配置します。新入生ゼミナールでは「大学での学び」につ

いて指導し、人文・社会・自然・地域志向の科目や外国語・健康科学の科目では幅広い教養を養成します。

- 2年次からは専門教育科目を配置します。一部は1年次から履修可能です。基本的な専門科目の修得を前提にして、経済学科では「日本経済」及び「金融・国際経済」の2領域に属する諸科目を配置します。経営学科では「組織マネジメント」と「会計」を2つの柱とし、これに加えて「情報」や「地域ビジネス」などの領域を設け、諸科目を系統的に配置します。
- 学生が個々のキャリアデザインに最適の学び方を設計できるよう、「履修モデル」を用意します。このモデルに系統的に配置された諸科目を段階的に履修することで、目標に応じた学びが無理なく達成できるようにします。
- 1年次から4年次の各学年において、教員と学生あるいは学生同士が交流しながら学べるよう、少人数による演習（ゼミナール）を配置します。
- 現場や地域社会での実践を体験しながら学べる、国内外でのインターンシップやフィールドワークを配置します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経済学部は、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

- 経済や経営に関する理論、歴史、政策、実践などに関する的確な基本的知識を身につけている。
- 経済や経営、地域社会などの出来事や問題に関心を持ち、それらを自らに関係することとして捉えることができる。
- 経済や経営、地域社会などの出来事や問題における課題を見だし、その解決方法を探求することができる。
- 他人の意見を聞き、自分の考えを適切に表現して他の人に正確に伝え、社会の中で人々と協力しながら、問題を解決することができる。

【経済学科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

経済学科は、経済に関する専門的な教育研究を行い、経済情勢の分析能力と総合的な判断力を備え、国際社会及び地域社会の発展に貢献する人材を養成することを目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 自分の暮らしている社会の経済に関心がある人。
- 経済の仕組みを理解したいという意欲がある人。
- 自分や身のまわりの人々の暮らしを良いものにしたいという意欲がある人。
- 経済学を学ぶための基礎的な能力（読む力、書く力、考える力）を身につけている人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経済学科は、学科の教育目的を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 共通教育科目と専門教育科目を体系的に配置します。
- 共通教育科目により、経済学を学ぶための能力を磨きます。具体的には、人間の社会や自然についての幅広い知識や考え方を学び、外国語を学び、さらに情報処理技術を身につけます。
- 専門教育科目は、主に2年次から配置しています。経済学の柱は理論・歴史・政策です。これらの柱に沿って、全員が経済学の基本を学びます。
- 専門教育の基本科目と並行して、応用科目において、日本経済及び金融・国際経済の理論と実際を学びます。
- 実践力を養成するため、経済調査実習などの実習科目を設けます。
- 卒業後を見据え、キャリアデザイン教育を充実させます。キャリアデザイン科目により、自立した社会人として経済について考え、行動する力を養成します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

経済学科では、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

- 経済学の理論・歴史・政策について、その基本をマスターしている。
- 時流に乗ったり流されたりすることなく、自主的に思考し判断することができる。
- 異なる意見に対しても耳を傾け、納得させることに努めることができる。
- 経済の出来事を注視し、その因果関係を究明することに興味を持てる。
- 経済学の専門性を生かして、社会貢献に役立てることができる。
- 経済社会を正しく認識し、課題の探究や解決に粘り強く取り組むことができる。
- 経済分析能力を発揮し、論理的に表現して問題解決方法を提示することができる。

【経営学科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

経営学科は、経営や地域創生に関する専門的な教育研究を行い、企業経営及び地域再生・活性化に必要な知識、技能、意思決定力、さらに現場での実践力を備えた、地域社会の発展に貢献する人材を育成することを目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 企業や取引社会の仕組みや現状を理解し、ビジネス社会で活躍したい人。
- 家業の引き継ぎや自分の店を持つなど、独立した経営者になることを目指す人。
- 会計や情報に関する、社会や企業で役立つ資格や技能を身につけたい人。
- 地域の諸問題に関心を持ち、将来、地域社会のために活躍したい人。
- 観光について系統的に学び、その知識を地域の振興に活かしたい人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

経営学科は、学科の教育目的を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 学生一人一人の個性を伸ばし、ビジネスや地域への探究心を育む教育を最重要視します。これを実践するために、教員一人一人と少人数の学生とが交流しながら学ぶ合うゼミナール形式の授業が、4年間ずっと経営学科のカリキュラムには配置されています。1年次の新入生ゼミナールをはじめ、2年次から始まる演習科目（ゼミナール）では、学生のコミュニケーション能力、プレゼンテーション能力を含む総合的な判断能力を醸成するのはもちろん、教員がサポートしながら、卒業に向けて学生が勉強したいことを卒業研究としてまとめていきます。
- 幅広い視野を得られる教養と深い思考の土台となる専門性を重視します。経営学科のカリキュラムでは、短期間では習得の両立が難しいこれら2つを学ぶ量のバランスが最適化されています。1年次を中心に共通教育科目で教養を身につけたあと、2年次からは、経営学や会計学の知識や思考方法の修得のほか、自己の目指す進路に合わせて、マーケティング、統計学、情報処理、観光産業、まちづくり等も専門的に学びます。
- 地域志向科目として配置された国内・海外インターンシップやフィールドワークによって現場での意思決定と実践を体験し、国際化する地域ビジネスや地域社会で活躍する能力を養成します。

ディプロマ・ポリシー（入学者受け入れの方針）

経営学科は、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

- 企業経営や地域再生・活性化を、社会で起こっている事柄と結びつけることができる。
- 人々のさまざまな考え方を理解し、現場での意思決定と実践に参加することができる。
- 社会のなかでの自分の位置と役割を自覚して、自分の進路を切り開いていくことができる。
- 企業経営や地域再生・活性化について、自ら課題を設定することができる。
- 身につけた知識や理解している学習・研究方法を用いて、自ら設定した課題を解決する道筋を探求することができる。
- 企業経営や地域再生・活性化に必要な知識や技能を身につけており、また、この知識や技能を得る学習・研究方法を理解している。
- 自分の考えを的確に表現し、人々に伝えるための方法を見つけることができる。

福祉社会学部

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

現代社会における福祉や教育、地域や家族の問題には複雑な要因が絡みあっています。福祉社会学部は、こうした諸問題に対処していく広い識見と専門的な実践力を有する人材の養成を目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 地域社会の未来を切り開いていく夢と情熱を持った人。
- 自ら考え行動する意欲を持った人。
- 広い視野と教養を備えた人間になるために自らを磨いていける人。
- 自ら心を開き、周囲の人びとと豊かな関係をつくっていける人。
- 専門職業人として「ともに生きる社会」の実現に貢献したいと考える人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

福祉社会学部は、学部の教育目的を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 基礎科目（新生ゼミナール、キャリアデザイン科目）を配置することにより、共通教育と専門教育との接合に力を注ぎます。
- 各学科では、専門教育科目を体系的に学び、問題の本質把握とその解決方法を修得していくカリキュラムを組み立てます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

福祉社会学部は、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

- 考える力、コミュニケーション力、チームで働く力を身につけている。
- 所属学科で専攻する社会福祉学、児童学に関する幅広い基礎的専門知識を身につけている。

【社会福祉学科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

社会福祉学科は、福祉・保健医療・介護・教育等の分野における社会福祉全般についての幅広い専門知識と技術を学び、福祉社会を実践的・理論的に支える人材を養成することを目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 人が好きで人の役に立ちたいと思っている人。
- 社会や地域の課題に関心を持っている人。
- 社会福祉に関心を持ち、専門職への意欲を持っている人。
- 社会福祉士を基本に、精神保健福祉士、介護福祉士、教員免許などの福祉に関する資格を取得し、福祉関係の分野で活躍することを目指す人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

社会福祉学科は、学科の教育目標を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 教養と、専門知識・技術とを、幅広く身につけるために、共通教育科目と専門教育科目を設けます。
- 社会福祉学科での学習は、社会福祉士受験資格取得が大きな柱となります。そのためカリキュラムは、学生全員が受験資格取得に必要な科目を履修できるように編成します。
- 1年次に、基礎学力の振り返りを行う新入生ゼミナールと、社会福祉専門職になるための要件や考え方を学ぶ鹿児島社会福祉入門、社会福祉概論Ⅰ・Ⅱ等を設けます。
- 1年次から専門教育科目を配置しています。これらの科目は3年次の施設実習に向けて履修が義務付けられています。
- 概ね3年次から、精神保健福祉士受験資格や教員免許取得等を目的とした養成課程選択を行います。
- 3年次から学生それぞれが関心あるゼミを選択し、4年次には演習論文の作成とともに、国家試験受験に集中的に取り組むシステムを用意しています。
- 介護福祉士課程では、専門科目に関して1年次からクラスを固定し、少人数教育を4年間徹底して行います。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

社会福祉学科は、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

- 社会的な支援を必要とする人々の立場とニーズを理解し、援助するために必要な知識を修得している。
- 人と環境の多様で複雑な相互作用に関わる幅広い知識とともに、それぞれの専門分野（福祉、教育、精神保健福祉、介護福祉）に関する専門的知識を修得している。
- 社会的な支援を必要とする人々にとって最適な援助は何か考え、適切に判断することができる。
- それぞれの専門分野の知識を基礎にして、課題解決に向けた方策を検討することができる。
- 社会問題や社会的な支援を必要とする人々に関心を持ち、改善を目指して個人や社会に働きかける意欲を身につけている。
- それぞれの専門分野における社会的使命を自覚し、専門的知識を学び続けることができる。
- すべての人をかけがえのない存在として尊重し、権利擁護と社会正義の実現に貢献しようとする態度を身につけている。

- 相手を受容し、共感をもって傾聴することができ、必要な情報を分かりやすく提供できる技能を身につけている。
- 関連機関との間で話し合いや共同作業を行い、連携することができる。

【児童学科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

児童学科は、子どもの教育や福祉に関する専門的知識・技術を修得し、子どもの未来を創造していける豊かな感性と深い知識を持ち、子どもに関する課題に積極的に関わる人材を養成することを目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 子どもの教育や福祉に関する専門的知識・技術の修得を望んでいる人。
- 子どもに関する課題に興味・関心を持って積極的に学習する人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

児童学科は、学科の教育目標を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 子どもに関する課題に対して積極的に取り組み、子どもの幸福を追求できる実践力を持った人材を育成します。
- 教育と福祉の観点から、それらの課題に直接関わる援助活動の現場で必要とされる、専門的知識・技術の修得と実践的な応用力の獲得を図っています。
- 子どもに関する興味・関心を高めるために、学科基本科目として、「総合講義「子ども学」」、「子どもの育ちと文化」、「子どもの人権と福祉」及び本学科の特色である地域に根ざした「鹿児島の教育」などを設けています。
- 免許・資格のための関連科目を多数配置しています。これがカリキュラム編成上の特徴です。
- 3年次には保育士資格取得のための保育実習を配置し、4年次には小学校教諭・幼稚園教諭免許取得のための教育実習を配置しています。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

児童学科は、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

なお、免許は小学校教諭一種免許及び幼稚園教諭一種免許を、資格は保育士・司書・司書教諭等の資格を取得することができます。

- 子どもの教育や福祉に関する専門的知識・技術を身につけている。
- 子どもの未来を創造していける豊かな感性と深い知識を有している。
- 子どもに関する課題に積極的に関わることができる。

国際文化学部

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

国際文化学部は、人間考察に関する専門知識を教授し、国際交流に必要な豊かなコミュニケーション能力と異文化に対する理解を深めることにより、グローバルな視点に立った国際人を養成することを目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 国際交流に関心を持ち、異文化との共生を目指す人。
- 多様な文化や芸術を理解し、それらの分野で社会に貢献する意欲のある人。
- 世界やアジア、日本や地域が培ってきた文化の発展に寄与する意思のある人。
- 国際社会で活躍するために必要な思考力・表現力を獲得する意欲のある人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際文化学部は、学部の教育目的を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 国際的な視野に立って情報発信し、世界や地域が培ってきた文化を理解し、現代社会の課題に取り組む力を身につけるために、言語、文化、芸術に関する科目を組織的に配置します。
- コミュニケーションに必要な能力と、異文化理解のための知識・教養、音楽に関連する専門性を高めるため、共通教育科目、専門教育科目を体系的に配置します。
- 国際社会で必要とされる実践的な力と応用力を養成するため、外国留学、国内外のインターンシップ、フィールドワーク、公演活動などの科目・プログラムを提供します。
- 個々の学生の個性や目的に合わせ、科目ごとの到達目標を確実に実現するため、徹底した少人数教育を実施します。

- 修得した知識・教養や技術を活かし、自らが直面する問題や課題を発見し、その解決法や対案を創造する能力を養成するため、卒業論文や卒業演奏・卒業作品の指導を丁寧に行います。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

国際文化学部は、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

- 異文化理解に必要な教養・姿勢を身につけ、芸術・文化の創造と発展に貢献できる。
- 高度なコミュニケーション能力と、グローバルな視点を活かすことによって、地域社会の発展に寄与できる。
- より平和で豊かな日本・国際社会の実現に向けて、主体的に行動できる。
- 国際社会の動向に弾力的・自律的に対応できる自己教育力を身につけている。

【国際文化学科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

国際文化学科は、世界的な視野を持ち、地域の社会、文化の意味と価値を理解し、発信しうる人材を養成することを目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 国際交流、海外での活動、外国人との外国語・日本語によるコミュニケーションなどに興味がある人。
- 政治・経済・宗教・文化・環境などに対するグローバルな関心や問題意識がある人。
- 地域の社会、文化の意味と価値を理解して、他の地域や海外に向けて発信しようという意欲を持つ人。
- 他者と協調できるバランスのとれた人間性を有する人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

国際文化学科は、学科の教育目的を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 「英語・欧米文化コース」「アジア言語・文化コース」「日本語・日本文化コース」の3コース、および3コースのベースとなる人間学、人類史を学ぶ「考古・歴史コース」を置いて、世界と地域の社会と文化を相互に関連させながら学ぶ体制を構築します。
- コースに分かれてそれぞれの専門領域の学習を深めると同時に、複数のコースを横断的に学習することで、多角的な視点から自国と他国の言語・文化をとらえる機会を確保します。
- 地域社会に積極的に関わり、活性化する能力を育成するため、現地体験実習科目やフィールドワーク科目等を設けます。これらの科目により、実践的なコミュニケーション能力や企画力、運営力、構想力、発信力を磨きます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

国際文化学科は、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

- 地域と自国の文化を客観的に見ることができると同時に、異文化を理解・尊重できる。
- 外国語の基本的な運用能力と高度なコミュニケーション能力を身につけ、グローバルな活動ができる。
- 専門的な知識と思考方法、および広く豊かな教養を身につけ、それに基づいて現代社会が直面する諸問題を多角的に考察し、対処できる。
- 自分の考えを論理的、説得的に述べることができると同時に、他者と対話的に関わるができる。
- 現代社会で生活するのに必要な情報処理能力、情報発信能力を身につけている。

【音楽学科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

音楽学科は、高度な技術と幅広い知識並びに豊かな創造性を有し、芸術文化を通し、社会に貢献できる人材を養成することを目的としています。そのために、基礎学力を有し、向上心を持った、以下のような人を国内外に広く求めます。

- 音楽の基礎的・実践的な知識と技術を身につけたい人。
- 音楽を通して地域社会の文化発展に寄与したい人。
- 国際レベルでの演奏活動を目指す人。
- 誠実に音楽と向き合い、努力を惜しまずに挑戦する人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

音楽学科は、学科の教育目的を実現するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 共通教育科目と専門教育科目を体系的に配置します。
- 共通教育科目では、「大学教育への導入」「キャリア形成支援」「専門教育の基礎形成」を中心として科目編成を行います。
- 音楽学科は、「器楽コース（ピアノ課程・ピアノ演奏家課程・管弦打楽器課程・管弦打楽器演奏家課程）」「声楽コース」「作曲コース」の3コースで構成されています。専門教育科目では、音楽の学習を進めていく上での確固たる土台を築く科目から、それぞれの専門領域でより高度な学習を体系的に行うための科目までを設けます。
- 地域社会に積極的に関わりながら芸術文化の促進や地域還元を図るため、現地体験やフィールドワークを重視します。これらの活動を通じて、実践的なコミュニケーション能力や表現力、企画力、運営力、構想力、発信力を磨きます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

音楽学科は、所定の単位を修得したことにより、以下のような段階に到達したと評価される学生に学位を授与します。

- 豊かな知識と教養を有し、音楽文化の創造発展に寄与できる。
- 地域社会に対する知識を有し、地域の教育・文化振興に貢献できる。
- 専門技術とコミュニケーション力を有し、国際的に活躍できる。

大学院

【経済学研究科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

経済学研究科は、経済学・経営学に関する科学的・実践的な問題解決能力を身につけた、地域や世界に貢献できる専門家を養成することを目的としています。そのために、以下のような人を国内外から受け入れます。

- 経済や経営の諸課題についての基礎的な知識及び解決能力を持ち、より高度な知識や分析力を得ようとしている人。
- 地域経済や経営を、幅広い視野で観察することができ、地域経済をより豊かにする情熱を持っている人。
- 地域や世界の経済及び経営が抱える諸問題を、修得した専門知識を活かして解決する意欲を持っている人。
- 国際社会で活躍できる専門職を目指す人。

[博士前期課程]

特に博士前期課程は、経済学・経営学を研究するのに十分な基礎知識と、自ら積極的に学ぶ意欲を持っている人を受け入れます。

[博士後期課程]

特に博士後期課程は、博士前期課程で身につけた知識・能力をさらに深化・発展させる意欲を持ち、自立して研究を進めることができる高度な研究能力を身につけた人を受け入れます。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

[博士前期課程]

経済学研究科（博士前期課程）は、研究科の目的を達成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 経済学分野が学べる地域経済系と、経営学分野が学べる経営管理系の2つの柱を設けます。
- カリキュラムの基本となる講義科目と演習科目を体系的に配置します。
- 実践的・応用的な知識・技能を学ぶ機会を担保するため、実業界から講師を招くワークショップ科目を設けます。

[博士後期課程]

経済学研究科（博士後期課程）は、研究科の目的を達成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- カリキュラムの柱として、経済学・経営学の専門分野について、理解をさらに深める研究指導科目を設けます。
- 各自の個別課題についての研究を進め、博士学位論文を作成できる指導体制を確立します。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

〔博士前期課程〕

経済学研究科（博士前期課程）は、課程を修了することによって、経済学や経営学について、以下の能力を身につけ、学位論文審査に合格した大学院生に、修士の学位を授与します。

- 地域や世界に貢献できる専門的知識や技能を修得している。
- 地域や世界で現在起こっている、又は将来起こり得る諸問題に関心を持ち、理論的・実践的な問題解決能力を身につけている。
- 自立して研究を進めることができる高度な研究能力を身につけ、問題の解決に向けて指導的役割を果たすことができる。

〔博士後期課程〕

経済学研究科（博士後期課程）は、課程を修了することによって、経済学や経営学について、以下の能力を身につけ、学位論文審査に合格した大学院生に、博士の学位を授与します。

- 博士前期課程で身につけた専門的知識・技能や分析力を、さらに向上させた、高い研究能力を身につけている。
- 研究の成果にもとづいて、高度な指導力・行動力が発揮できる。

【福祉社会学研究科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

福祉社会学研究科は、従来の社会福祉を超えて、広い視点から福祉社会の構築に寄与できるリーダーを養成することを目的としています。

〔博士前期課程〕

特に博士前期課程は、社会福祉に関する理論的・実践的研究とともに、保健医療・福祉・介護・教育・保育などを考究し、問題の解明と援助・支援のできる専門的職業人の養成を目的としています。そのために、以下のような人を国内外から受け入れます。

- 社会福祉の理論と実践に関する学修及び研究に必要な基礎的な知識・技能を備えている人。
- 広い教養と高い倫理観をもち、社会福祉研究における社会的責任を認識し、主体的に学ぶ意欲を持っている人。

[博士後期課程]

特に博士後期課程は、豊かな学識を備え、自立した研究活動を国内外で行うことができる高度な専門性を有する職業人、及び研究者の養成を目的としています。そのために、以下のような人を国内外から受け入れます。

- 社会福祉の理論と実践に関する学修および研究に必要な専門知識・技能を備えている人。
- 社会福祉の諸課題に対応する研究に取り組み、高度な専門的知識を持って国内外の問題解決に貢献していこうとする情熱を持っている人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

[博士前期課程]

福祉社会学研究科（博士前期課程）は、研究科の目的を達成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 社会福祉臨床実践系、社会福祉制度・政策系、健康福祉・教育系の3つの領域を設け、これらの領域を有機的に関連させながら研究・教育を行います。
- 福祉臨床・実践に関する専門知識・技術を修得し、福祉の理論との統合化について学ぶ科目を配置します。
- 福祉社会学の多様な分野の中から各自が研究課題を定め、これについて研究を進めて修士論文を作成できる指導体制を整えます。

[博士後期課程]

福祉社会学研究科（博士後期課程）は、研究科の目的を達成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 演習（博士論文指導）を中心にカリキュラムを編成します。
- 制度・政策・生活保障等の諸問題、負担・給付問題、介護問題、福祉臨床、福祉計画、教育・保育課題など、多様な分野で専門研究に取り組める体制を確保します。

- 国際的で豊かな学識と能力を修得し、専門性の高い独創的な学位論文を作成できる指導体制を整えます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

〔博士前期課程〕

福祉社会学研究科（博士前期課程）は、課程を修了することによって、以下の能力を身につけ、学位論文審査に合格した大学院生に、修士の学位を授与します。

- 高い問題意識を有し、専門的研究を行い得る能力を身につけている。
- 社会に貢献しようとする熱意があり、福祉的支援において必要な問題対応能力を身につけている。

〔博士後期課程〕

福祉社会学研究科（博士後期課程）は、課程を修了することによって、以下の能力を身につけ、学位論文審査に合格した大学院生に、博士の学位を授与します。

- 福祉研究の領域において、自立して研究できる高度な専門的能力を身につけている。
- 福祉社会の構築に熱意があり、研究の成果を社会に向けて発信し、問題解決の能力を身につけている。

【国際文化研究科】

アドミッション・ポリシー（入学者受け入れの方針）

国際文化研究科は、国際文化に関する深い学識及び卓越した能力を養うとともに、それに基づき国際的視座に立って専門的な業務に携わる職業人や、高度の研究能力を持つ人材の養成を目的としています。

〔博士前期課程〕

特に博士前期課程は、地域社会における国際的事業のリーダーたりうる専門的知識を備えた職業人の育成、留学生の研究指導、博士後期課程への進学を目指す研究者の養成を主な目的としています。そのために、以下のような人を国内外から受け入れます。

- 学士課程修了相当以上の学識を有し、国際交流に対する関心と旺盛な向学心のある人。
- 外国語を通じて外国人と交流することに関心を持ち、このことを通じて国際交流に貢献しようという意欲を持っている人。
- 人類が築き上げてきた様々な文化に関心を持ち、異文化理解を通じて国際社会の平和共存に貢献しようという意欲を持っている人。
- 日本語や日本文化、アジア近隣諸国の文化研究に関心を持っている人。

[博士後期課程]

特に博士後期課程は、国際文化に関する研究者として自立して研究活動を行う能力と、豊かな学識を持つ人材の養成を主な目的としています。そのために、以下のような人を国内外から受け入れます。

- 博士前期課程修了相当以上の学識を有し、国際交流に対する強い関心と旺盛な向学心のある人。
- 自分が行っている研究を、在学期間中に博士論文という成果に結実させる意思を持ち、自力で研究を遂行する力を身につけ、在学期間中に博士号を取得する意欲のある人。
- よりよい社会の実現や、異文化交流の発展のために、実践的知見を踏まえつつ学問的貢献を目指す意欲のある人。

カリキュラム・ポリシー（教育課程編成・実施の方針）

[博士前期課程]

国際文化研究科（博士前期課程）は、研究科の目的を達成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- 多様な科目を、系統的かつ組織的に配置します。
- それぞれの研究課題について行き届いた指導を受けながら、修士論文を作成できるよう、国際文化研究演習を設けます。
- 留学生や社会人を含めた多様な文化的背景をもつ大学院生に、きめ細かい指導を行うため、必要に応じて副指導教員を配置します。
- 実践的・応用的な能力を育成するため、ワークショップ、海外語学研修、実習科目などを設けます。

[博士後期課程]

国際文化研究科（博士後期課程）は、研究科の目的を達成するために、以下のような方針に基づいてカリキュラムを編成します。

- それぞれの研究課題について行き届いた指導・助言を受けながら、博士論文を作成できるよう、国際文化研究指導を設けます。
- 多様な文化的背景をもった大学院生に対応するために、英語を教授用語とする科目を設定し、英語による教育・研究から論文執筆までの一貫した指導体制を整えます。

ディプロマ・ポリシー（学位授与の方針）

[博士前期課程]

国際文化研究科（博士前期課程）は、課程を修了することによって、以下の能力を身につけ、学位論文審査に合格した大学院生に、修士の学位を授与します。

- 国際社会に対する広い視野と深い人間理解により、多文化社会のリーダーとして活躍できる専門的知識とコミュニケーション能力を身につけている。
- 地域社会の国際交流事業や国際化教育に指導的役割を果たすことができる実践的応用力を身につけている。
- 地域や世界の異文化交流などに関する課題に対して、高度の理論的考察を遂行し、自立して研究できる能力を身につけている。

[博士後期課程]

国際文化研究科（博士後期課程）は、課程を修了することによって、以下の能力を身につけ、学位論文審査に合格した大学院生に、博士の学位を授与します。

- 高度な専門的知識を身につけ、自立した研究者として活動できる。
- 高度な専門知識を活かして、異文化交流、教育などの分野で活躍できる。